

前田新田の守り神

春日大明神

平成元年四月五日号

前田新田の松林に「春日大明神」と刻まれた石碑が、ひっそりと建っています。今回はこの碑にまつわるお話を前田新田の市川裕ゆたかさんに語っていただきました。

神様が夢枕に

今から七十年以上昔のお話です。前田新田に悪い病気にかかり、寝たきりになってしまった人がありました。いろいろな薬を飲んだり、お医者さんにかかったりしましたが、病気は

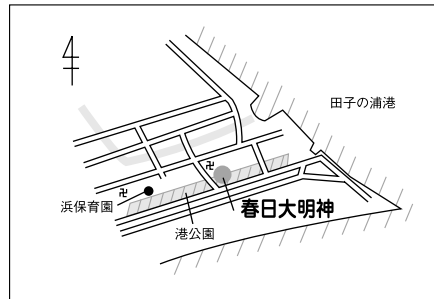
一向によくなりませんでした。

ある晩のことです。病気で苦しんでいる人の夢枕に神様があらわれました。そして次のように語りました。

「ワシは富士川で産まれた石の神じゃ。その昔、津波を防ぐ神としてこの地域に住んでおったが、今は流されてしまつて潤井川の河口に横たわつておる。ワシを拾い上げ、春日大明神と刻めば、そなたの病はすぐに治るだろう」

たちどころに治る

翌朝、家の人が潤井川に行つてみると、長さ二メートル五十センチ余り、周囲は三メー



▶ 春日大明神（平成十四年二月撮影）



トル近くあるうと思われる大きな石が流れ着いていました。

早速、人を集め、大勢の人の手で石を拾い上げました。そして、現在の場所に祭ると、村人の病気はたちどころによくくなりました。

当時は大騒ぎだった

市川さんは石を拾い上げたときのことも覚えています。「ありやねえ、私が五つか六つの時分だったね。五十人ぐらいの人が、舟を運ぶ時に使うころを敷いて運んだよ。当時は大騒ぎだったもんだ。春日大明神はそれから後に津波や富士川の洪水に遭ったけど、ビクともしなかつたね。今は、地元の人でも春日大明神を知らない人が多くなって、寂しいね」と語ってくれました。

語ってくれた方

市川 裕さん